

「生徒の学習意欲を喚起するための
インターネットの活用」
葛尾村立葛尾中学校

1. 研究のねらい

現在、コンピュータを利用した学習はドリルによる個別学習、応用ソフトウェアを利用した演習、シミュレーションの提示等が中心になっている。さらに、インターネットを活用することにより、全世界に電子メールを出したり、情報を検索し、資料を収集したりすることができ、教育への導入は未知の可能性を秘めている。

本校では、インターネットのさまざまな利用法を明らかにし、授業のどの場面で、どのように利用すれば、生徒の学習意欲を喚起し、学習効果上がるのかを、実践授業を通して明らかにしようと研究に取り組んでいる。

2. 研究の内容 <英語科の実践>

(1) 実践の意図

本校ではALTがいないため、生徒に「自分の英語が英語のネイティブスピーカーに通じた」という喜びを味わわせることができない。普段の授業で身につけた言語材料を駆使し、場面や状況に応じた適切な表現活動を行うことは、生徒の表現力を育成し、さらには学習意欲の持続にも欠かせないものである。

そこで、海外の人と直接コミュニケーションをすることができるインターネットを活用することは、このような状況を設定するのに最適なものであると考える。ネット上で生徒は、外国の人とメール交換をしたり、様々な提案やアンケートに答えるなどして情報交換を行うのである。

こうした海外の人々との情報のやりとりを直接行うことは、国際理解を深めることにもつながると考える。

(2) 実践の概要

① 授業の内容

初めに、インターネットの校内LANを活用し、電子メールの出し方を中心とした授業を実施した。同時期に担任教師の吉報があったため、担任へお祝いのメッセージを英語で書き、担任へ電子メールを送った。

② 生徒の反応

インターネットに接続されたコンピュータが6人に1台程度なので、生徒同士がよく協力しあっていた。また、メッセージの内容は生徒らしい生き生きとしたものであった。さらに、英語による返事をもらうことで、学習の成就感と海外との通信への意欲が一層高まった。

③ 今後の課題

実際に電子メールを出す外国人を見つけ、テーマを設定して情報を交換し、同世代の外国人との交流で発見したものをまとめ、情報として発信できるように指導したい。



3. 研究の成果

英語科で、インターネットを使った実践授業を行うことにより、生徒に驚きや発見を与えることができ、今までにない教育的効果があることが実感できた。しかし、インターネットを教育に生かしていく研究は始まったばかりであり、その利用の方法については試行錯誤の状態である。今後、継続して研究を進め、コミュニケーションツールとして大いに活用していきたいと考える。